

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUSŪA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUSŪA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 807 majo 2018

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802
KJUSŪA ESPERANTO-LIGO
2-190, ŜISAIDO, TARAMI-ĈO, ISAHAYA-ŜI, NAGASAKI,
859-0407, MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyô, Naruto-si,
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

ENHAVO

エスペラントのための情報技術 ズームを使ってみよう
..... belmonto (やましたとしひろ) 1-2
初心者のための語尾なし単語の使い方 (65) ... 相川 節子 2
楽しい作文教室 (81) 塚本 猛 3
Kajero Libervola: Ambedkar YAMAGUTI Sin'iti 4
モバード俳句 (56) 広高 正昭 5
対訳: 源氏物語 第15帖 蓬生 (8)
..... 紫式部 / belmonto 6-7
書評: Zamenhof en Varsovio 渡辺 克義 8
Pri baleto-lernejo "Esperante" 編集部 9
小西岳さん追悼: 才気あふれる年賀状 相川 節子 10
Japana kamelia oleo YANO Akinori 10
楽譜: 船頭さん
..... 武内 俊子作詞 / 河村 光陽作曲 / 島谷 剛訳 11
La Movado: 関西大会最新情報、他 12-13
出版情報『長谷川テルを讃える』 13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績 14
Mikspoto / KLEG 事務局だより / 作文教室課題 15
小西岳さんをしのぶ会のお知らせ (再掲) 15
編集ノート 16

エスペラントのための情報技術



ズームを使ってみよう

belmonto (やましたとしひろ)

1 ズームとは

「ズーム」のお話をしましょう。ここ数年で急速に進展したシステムです。ネットの場所 (URL) を指定しておいて、そこにアクセスするシステムです。スカイプと違って、呼び出す方式ではなく、またとても動作が軽く、参加する ID もいりません。

昨秋に出たばかりの『ZOOM オンライン革命!』(田原真人、秀和システム、2017) の 38 ページの事項に、主に PC を使った場合の補足をします。

2 ズームを選ぶ 12 個の特徴

(1) 1 クリックで接続できる

zoom.us に接続し、「ミーティングに参加する」をクリック。主催者から知らされたミーティング ID (数字) を入力し、「参加」をクリック。初回はアプリをインストールするように求められるので了承します。しばらく待つとその部屋に入れます。初期設定ではマイク・ビデオがオフなので、左下にカーソルを持って行き、オンにしましょう。

会議を主催したければ、「ミーティングを主催する」をクリックして、登録します。スマホ・タブレットにアプリをインストールすると、主催者登録が済

んだ状況になります。

(2) 1 クリックで録画できる

主催者は会議を録画できます。記録のためにも欠席者のためにも有用です。映像は音声の何倍もの情報があります。主催者が許可を与えれば、参加者も録画が可能です。スマホでは不可。ズーム以外のソフトでは別のソフトを起動して録画しなければなりません。

(3) 高品質の画像と音声

音声は明瞭で、相手の表情もよく読み取れる映像で、実際にいま会っている感覚です。「(その人を信用するために) では実際に会って話しましょう」が必要なくなった、とこの本には書かれています。

(4) ブレイクアウトセッション

小グループに分けて会議ができます。これは他のソフトにない機能です。

(5) 最大 500 人で同時接続可能

200 人が参加したイベントがありました。1 コースに 4 ~ 5 つの講座を行い、平行して 4 コースを朝から夜まで行いました。大成功だったそうです。

PC では、縦横 5 人ずつの 25 人が 1 画面で表示されます。タブレットの場合は 9 人、スマホは 4



iPhone, Windows, Xubuntu で接続しています

人です。全員を見るには、画面をめくりまます。スマホの場合は画面を左にフリック（ずらす）します。

(6) みんなで書き込めるホワイトボード

参加者が話をしながらいろいろ書き込んで、考えを集約していけます。

(7) 画面共有

自分の画面を全員に転送できます。これで教材を示したりすることができます。また「チャット」では文字交換や資料転送ができます。スマホでは資料転送はできません。これを使って、書記になった人が、どんどんメモして行って、会議がおわったら会議録がほぼできている、ということが可能です。

(8) リモートコントロール

主催者は、相手の許可を得て相手のPCを操作することができます。相手が操作方法がわからないとき、直接操作して代行できます。

(9) 多様な端末から繋がる

Windows, Mac, Linux, Chromebook, スマホ, タブレットなどから接続できます。ブラウザの

Google Chrome のアプリの中に Zoom があるのでこれを使うと、どの端末からでも接続できます。

(10) 安定な接続

これはまちがいありませんが、悪条件で実施したところ、映像が停止したり、音声が聞き取れなかったりしました。これは参加者の回線速度の問題のようです。「悪条件」とは、①コンクリートの室内で②スマホ（会場は電波が弱かった）からWiFiを発信して③それに数名で接続した、ことでしょうか。

(11) 直感的な操作

特に難しい操作はなく、マイク・ビデオのオン・オフ、退出の仕方を学べばおわりです。

(12) 安価

遠隔会議には 100 万円近い出費が必要ですが、ズームは 2 人で使用した場合は無料です。3 人以上の場合は 40 分まで無料、時間が過ぎると停止します。月々 1,700 円ほど払えば、無制限になります。

3 ズームを活用しよう

福岡の友人から、ズーム活用講座でたくさんの人が学んでいる様子を知らせてきました。

次のような構想があります。日を決めて、「エスペラント学習祭」を開催する。何人かで講師をし、実施する内容を 30 分の講座にし（無料時間 40 分以内）、それを一日中（半日）行う。いかがでしょうか。

4 参照

ミーティングの開き方 goo.gl/MLKQkc

スマホで goo.gl/Z6RkQ9

※ <http://kes.esperas.info/?akcepto> でお試ください。希望の時間等をお知らせくだされば対応いたします。

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (65)

相川 節子

定冠詞 la

日本語話者にとって、いちばんやっかいな「語尾なし単語」と言ってもいいでしょう。ザメンホフは最初に発行した小冊子の中の文法の説明で「他の言語の定冠詞と使い方は同じ」などと無責任なことを言っています。細かく言うと、言語によって定冠詞の使い方は違うと思うのですが。

① 話し手と聞き手にとって既知のものには la をつける。

2018.5

たとえば、講習会の講師が生徒のひとりに向かって話していると想像してください。

Mi pruntedonos libron al vi.

(本をお貸ししましょう)

Mi pruntedonos la libron al vi.

(あの本をお貸ししましょう)

前者の場合、どの本のことを話し手はすでに決めているかもしれませんが、聞き手の方は、どの本のことなのか知らないわけです。

後者の会話では、話し手と聞き手の間ですでに話題になった本があって、その本のことを話しています。

[この項続く]

La Movado 807



①彼はその商品を価値より安く売っている。

【訳例 1】Li vendas la varon sub ĝia valoro.
(Ivajo, festo, alfa)

【訳例 2】Li vendas tiun varon sub ĝia valoro.
(ikona)

【訳例 3】Li vendas la varon je la prezo malpli alta ol ĝia valoro. (ヒー坊)

「商品」は varo や varoj でいいでしょう。商売 (komerco) で売っているものなので、komercaĵo (商品) で表現することもできます。「安く」には、malmultekoste や malaltpreze などが考えられます。少し違いますが kun rabato (値引きして) を使う場合もあるでしょう。「売る」は vendi が使えます。vendi kontante (現金で売る)、vendi sian honoron (名誉を売る) などの用例があります。

訳例 1、訳例 2 は、sub (~の下で) と valoro (価値) を使うことで、「安く」を表現しています。このように sub の「下位の、劣った」という用法により、簡潔な表現が可能です。sub の対義語は sur、super ですが、super の対義語として用いることが多いようです。

②どうやって商品を用意したのかと尋ねた。

【訳例 1】Mi demandis lin, kiel li preparis la varon. (ヒー坊)

【訳例 2】Mi demandis lin, kiamaniere li preparis la varon. (festo)

【訳例 3】Kiamaniere vi preparis la varojn, mi demandis al li. [解説参照](AG)

「どうやって」は kiel や kiamaniere が使えるでしょう。「用意する」は prepari(用意する) ですね。「尋ねる」は、人を対格にして demandi iun pri io で表現できます。訳例 3 以外では、誰に尋ねたのかを省略しない方がいいでしょう。

訳例 1、訳例 2 は間接話法ですが、訳例 3 は直接話法のように見えます。引用符を付加して、直接話法であることをはっきりさせる方が良いでしょう。

demandi や peti のように対象が 2 つある動詞では、片方を対格で示し、他を前置詞で示します。文脈から明確な場合は、どちらかを省略する場合

もあります。どちらを対格で示すかは入れ替わる場合があるようです。demandi に関して、文法書 PAG (Plena Analiza Gramatiko) には iun pri io と ion de iu の形が出ています。

③彼が商品を用意していないのではと疑った。

【訳例 1】Mi suspektis, ke la varo ne estas preparita. (CA)

【訳例 2】Mi suspektis, ke li ne preparis la varon. (ヒー坊, Eiko, ikona, M.H.)

【訳例 3】Mi suspektis, ĉu li ne preparas la varon. [解説参照](Orion)

「疑う」には、suspekti ion (怪しいと思う) や dubi ion/pri io (真实性を疑う) が考えられます。訳例に出ている suspekti には、悪い事態を想定した suspektato (容疑者) や suspektinda (怪しい) などの用例があります。

訳例 3 ですが、ここの ĉu は不適切です。主節で suspekti を使うなら、従属節は ke です。ĉu による疑問節を使うのであれば、主節は dubi が基本だと思います。また、dubi と suspekti の意味が異なるため、単純な置き換えはできません。訳例 1 で dubi に置き換える場合は、従属節の ne を削除します。訳例 3 で置き換える場合も、題意に合わせて、ne を削除する方がいいと思います。

④彼には何か隠された意図があるのか？

【訳例 1】Ĉu li havas ian kaŝitan intencon?
(Orion, ikona, Fumi)

【訳例 2】Ĉu li kaŝas intencon ian? (ヒー坊)

【訳例 3】Ĉu li havas iun kaŝitan intencon? [解説参照](festo, Haveno)

【訳例 4】Mi dubas ĉu li havas ian intencon kaŝitan? [解説参照](T.Ku)

この場合の「何か」は ia (何らかの) で、「隠す」は kaŝi で表現できるでしょう。「意図」には intenco (何かを目指す意思の動き) を使えます。

訳例 3 の iu は、「どれかの」という意味です。いくつかの「意図」を想定していて、そのうちの「どれかの」と言っているように見えます。

訳例 4 の疑問符は不要です。意味は、「何か隠された意図があるかどうかを疑う」です。ここで ke を使うと、隠された意図はないと思っていることになります。

成績は p.14、新しい課題は p.15。

マハトマ・ガンジーと激しく対立しながら不可触賤民解放を願ったアンベードカル。彼の願いと精神は脈々と受け継がれている。

Matene la 2-an de oktobro 2014 mi atingis la flughavenon de *Nagpur* en Barato.

Tiu ĉi urbo situas en la mezo de la Hinda subkontinento. Kvankam ĝi havas ĉ. 2,5 milionojn da loĝantoj kaj internacian flughavenon, ĝi ne estas fame konata al turismemuloj. Mi vizitis ĝin ne por turismi sed por korpe kaj mense senti budhisman etoson tian. Oni diras, ke budhismo jam malaperis en Barato; tio tamen ne ĝustas. Efektive ĝi estas revigliĝanta en la meza Barato, precipe en *Nagpur*.

La 14-an de oktobro 1956 ĉi tie okazis ceremonio de kolektiva konverto; Okaze de tiu ĉi evento *Bhimrao Ramji Ambedkar* (1891-1956) kaj 500 mil dalitoj* oficiale deklaris sian konvertiĝon al budhismo el hinduismo. *Ambedkar* naskiĝis kiel dalito, la plej mal-superen metata en la hindua socio kaj suferanta pro severa diskriminacio. Li, malgraŭ sia deveno, feliĉe havis ŝancon studi en universitatoj en Mumbajo, poste en Novjorko kaj en Londono. Reveninte al sia hejmlando, li komencis sian agadon kiel juristo, ekonomiisto, politikisto kaj socia reformisto. Li eĉ fariĝis la unua ministro pri justico de sendependa Barato en 1947, kaj estis unu el la ĉefaj ellaborintoj de la Barata Konstitucio. Kvankam li supraĵe gajnis sukcesan karieron kaj vivis kiel elitulo, la koro doloradis al li. Malgraŭ la konstitucio, kiu malpermesas diskriminacion, li estis daŭre suferanta pro diskriminacio. Ekzemple, liaj subuloj en la ministerio evitis rekte transdoni dokumentojn al li, sed ĵetis ilin planken de la ministra ĉambro. Kiel ajn la konstitucio malpermesas, diskriminacio ne povas esti

2018.5

ekstermita, se oni ne abolas kaston mem, kion li konsciis jam de antaŭe.

Mahatma Gandhi (1869-1948) multe kontribuis al la sendependiĝo de Barato. Li gvidis civilan malobeon sen perforto. Lian meriton oni neniel povus ignori. Sed li konsideris la kadron de hindua kulturo kiel nepraĵon kaj klare kontraŭstaris dalitan movadon por aboli kaston, kvankam li diris, ke dalito devas esti respektata kiel ido de dio (*harijan*). Al li gravis unuiĝo de hinda socio kun pluraj kastoj kaj religioj. *Ambedkar* kaj liaj adeptoj kritikis lin rifuzante la nomon *harijan*.

En 1931, kiam *Ambedkar* kaj *Gandhi* por la unua fojo renkontiĝis, *Ambedkar* diris: "Mi ne havas patron." *Gandhi* surpriziĝis. "Kion vi diras? Vi havas patron. Mi bone scias, ke vi estas patrioto, laŭ ĝisnunaj viaj laboroj." "Mi ripete diras, ke mi ne havas patron. Mi ne povas nomi tian landon mia patrio, en kia dalito estas traktata kvazaŭ kato aŭ hundo kaj ne rajtas trinki akvon el vilaĝa fonto. Ni dalitoj ne fieras pri tiu ĉi lando." Ĉi tiel komenciĝis longdaŭra batalado inter la du gvidantoj, unu de hinda popolo kaj alia de diskriminaciata popolo.

Ambedkar iom post iom konsciĝis, ke la radiko de la diskriminacio kuŝas sur la profunda tavolo de hinda socio, nome en hinduismo. Post longa, sincera kaj profunda studado pri religio, li decidis forĵeti hinduismon kaj konvertiĝi al budhismo, kiu ne aprobas kaston. Li energie kaj detale planis grandiozan ceremonion de konverto, kaj ĝi realiĝis kiel skribite supre. Bedaŭrinde tamen li forpasis du monatojn post la ceremonio. Poste, ĉiujare okazas kolektiva konvertiĝo kaj multiĝas budhanoj, ĉefe en la meza regiono Maharaŝtro. La nuna gvidanto de la nova budhismo estas japan-devena bikŝuo *Sasai Syūrei*. Li, post sia transloĝiĝo al *Nagpur* en 1967, daŭre energie aktivis heredante la deziron kaj voton de *Ambedkar*.

* **dalito**: ダリット。いわゆる不可触賤民だが、憲法では「指定カースト」と規定しており、彼等自身は「ダリット」と自称している。

Rondo Hajkista (56)

HIROTAKE Masaaki (広高 正昭)

拙著『エスペラント俳句の作り方』には、同書中の作品に実際に使われた 100 余りのエスペラントの季語 (sezonvorto) を掲載しています。今回の投稿作品と選者の作品に現れた季語を見ると、いずれもその 100 余りの中には含まれていないものです。エスペラントの俳句 (hajko) 作りを通して、エスペラントの季語の世界が少しずつ広がっていることを感じることができ、とても嬉しく思いました。

季語は、実際に俳句の中で使われて、その内容が明らかになっていきます。これからも色々な季語を使った俳句作りに挑戦していきたいと思います。

Kvar legantoj kontribuis sume 11 hajkojn.
Dankon al la kontribuintoj.

Falas en vento
petaloj el florarboj —
Gapas infanoj (Takesi)

Ŝajnas, ke la florarboj estas sakuroj, kies petaloj bele falas kaj disflugas en la vento. La infanoj mire rigardas tion kvazaŭ magian scenon.

Fosaĵo de kastel' —
Barko tranĉas petalojn
de ĉerizfloro. (Joŝi)

Bele. Boatkapo glite tranĉas petalojn sur akva fosaĵo. Sed bedaŭrinde estas ke la unua verso havas supersilabon. Mi rekomendas ŝanĝi la unuan verson al verso kun kvin silaboj, ekzemple, "Akva fosaĵo —".

Enanto ĝermas
kaj banas sin sub suno —
kampara monto. (Yuko)

Unu el belaj printempaj scenoj en paca etoso de kampara monto. Rigardi tian pejzaĝon estas ĝojo kaj feliĉo ankaŭ por legantoj.

La friponetoj
sur astragala kampo
ludas sumoon (Gruo)

Petolaj infanoj ludas sumoon sur kampo plena de astragalaj floroj. En hajko foje gravas ordo de la eldiritaj vortoj. Legantoj, sekvante la ordon de la vortoj, konstruas al si imagon, kiun prezentas la hajko. Jen mia propono:

ludas sumoon
friponetoj en kampo
de astragaloj

La modifita peco donas pli efikan impreson pri la infanoj en la astragala kampo. Temas pri sama efiko kiel malzomado en filmado.

Je la fino mi prezentas miajn pecojn kaj komentas koncize pri sezonvortoj.

resta malvarmo —
kun brovoj kuntiritaj
manoj laboras

"Resta malvarmo" estas printempa sezonvorto, kiu indikas malvarmon post printempokomenco (ekprintempo) laŭ la lunosuna kalendaro.

grenpluvo estas —
polurite malsekaj
nigraj tegoloj

"Grenpluvo" estas unu el la dudek kvar sunperiodoj. Ĝi respondas al ĉ. 20a de aprilo laŭ la suna kalendaro. Laŭvorte ĝi signifas pluvon, kiu akvumas kaj kreskigas grenon.

モバード俳句投稿案内 (8月号に掲載予定)

- temo (兼題) : 自由題。夏の季語を詠みこむ。
(複数投句の場合は無季句を含んでも可)
- 郵送の場合 : 作品 (3句まで) とローマ字書きの筆名、住所氏名を記載。送り先は、
〒832-0073 柳川市鍛冶屋町 39 広高 正昭
- 電子メールの場合 : 内容は郵送の場合と同じ。
送り先は、hirotk-m@nifty.com
- 締切 : いずれの場合も 5月 31日 必着。

Yomogifu – La Ruindomo (8)

eljapanigis belmonto

11) *Genĝi* eniras domon

“Kial vi revenas tiel malfrue? Kiel ĝi estas? Tro da sovaĝaj herboj, kovrantaj postsignojn.”

Respondis *Koremitu* al li.

“Tiel kaj ĉi tiel mi alparolis. La maljuna ĉambelanino nomata *Seŭŝaŭ*, kiu klarigis sin la avino de *Ĵiĵu*, servas en la sama voĉo, kiel antaŭe.”

Genĝi tre kompatis ŝin, aŭdinte lian raporton.

“Ho, kiel la princino vivas en tia herboza loko? Kial mi forgesis viziti ŝin!”

Li bedaŭris sian senkompatecon.

“Nu, kiel mi faru? Kaŝema ekskurso estas malfacila por mi nun. Se ne survoja afero, mi ne povos viziti ŝin. Ŝi estus tia persono kun karaktero sensanĝa, kiel antaŭe. Tio povas esti.”

Tion konsiderante, li ne povis tuj eniri pro hezitemo. Li ekvolis sendi impresigan utaon al ŝi, sed hezitis, konsiderante iritiĝon de mesaĝisto atendi ŝian tro malrapidan respondon, se ŝi estus en sama lanta inĝeneco, kiel en la pasinteco. *Koremitu* diris.

“Vi ne povos facile enpaŝi tra densaj rosoj. Bonvolu faligi ilin de sovaĝherboj, kaj poste eniru.”

Genĝi utais al si mem.

Iru mi tra herbar’ densa
Trovu vin en ĝemo pensa
Longloĝantan en sopiro
Ne ŝanĝitan kun espero

Li tuj elĉariĝis. *Koremitu* balae faligis herborosojn antaŭ liaj piedoj per ĉevalvipo, kaj kondukis lin. Pluvo ankoraŭ faletis, kiel ‘aŭtuna portempa pluvo’ en utao. *Koremitu* ordonis.

“Servisto tenu ombrelon por la mastro.

「などかいと久しかりつる。いかにぞ。昔の跡(あとも)見えぬ蓬(よもぎ)のしげさかな」

とのたまへば、

「しかじかなむたどり寄りてはべりつる。侍従がをばの少将といひはべりし老人(おいびと)なん、変らぬ声にてはべりつる」

と、ありさま聞こゆ。いみじうあはれに、

「かかるしげき中に、何心地して過ぐしたまふらむ。今までとはざりけるよ」

と、わが御心の情(なさけ)なさも思し知るる。

「いかがすべき。かかる忍び歩(あり)きも難かるべきを。かかるついでならではえ立ち寄らじ。変らぬありさまならば、げにさこそはあらめと推しはからるる人ざまになむ」

とはのたまひながら、ふと入りたまはむこと、なほつつまじう思さる。ゆゑある御消息もいと聞こえまほしけれど、見たまひしほどの口おそさもまだ変らずは、御使の立ちわづらはむもいとほしう、思しとどめつ。惟光も、

「さらにえ分(わ)けさせたまふまじき蓬の露けさになむはべる。露すこし払はせてなむ、入らせたまふべき」

と聞こゆれば、

たづねても
われこそとはめ道もなく
深きよもぎの
もとのこころを

と独(ひとり)りごちて、なほ下(お)りたまへば、御さきの露を馬(むま)の鞭して払ひつつ入れたてまつる。雨(あま)そそきも、なほ秋の時雨(しぐれ)めきてうちそそけば、

「御かささぶらふ。げに木の下露は、雨にまさりて」

Akvogutoj de arbobranĉoj estas efektive pli duŝaj.”

La baskoj de la hakamo de *Genĝi* ŝajnis multe malsekigitaj. La meza pordo, kiu estis jam malnova antaŭe, nun tute ruiniĝis. Hontinde estis trapasi tian, sed feliĉe estis, ke neniuj vidos lian eniron.

12) Kartamo revidas *Genĝi*

Kartamo estis tre ĝoja je realiĝo de la rerenkontiĝo kun *Genĝi* post longa atendado, sed ŝi hezitis revidi, kun ĉagreno, kiel ŝi kondutos en la mizera cirkonstanco. La vestoj, kiujn donacis la onkino, la edzino de la vicprovincestro, estis enmetitaj en ŝian ĥinan sespiedan keston kun parfumo, sentante malagrablon kontraŭ tiu. La ĉambelaninoj elprenis ilin bone aromitajn, kaj ŝi vestis sin per tiuj, sen alia rimedo. Ili ankaŭ metis la kadukitan vandokurtenon proksime.

Genĝi eniris la ĉambron kaj diris.

“Dum multjara nerenkontiĝo mi ne ŝanĝis mian koron kaj daŭre havis zorgon pri vi. Sed kontraŭ mia volo vi ne sendis eĉ leteron al mi je mia rankoro, tial mi provis vin dume. Nun, altirite de la arboj kiel ‘kriptomerioj de *Miva*’ en utao, mi ne povis preterpasi vin, malvenkite en la pacienca konkuro kun vi.”

Li tiris la penditan ŝtofon de la vando-kurteno, kaj trovis, ke ŝi sidas heziteme kaj ne tuj respondas. Ŝi apenaŭ parolis nur mallaŭte kun tuta klopodo, dankante lian viziton, trapasantan la sovaĝejon. *Genĝi* diris.

“Mi aprezas vian malĝojan travivadon kaŝite de herboj dum multaj jaroj. Mi ne estas la persono, kiu ne ŝanĝas la koron, sed ne estis certa pri la via. Kiel vi komprenas min, vizitantan tra densaj rosoj? Ĉiuj virinoj pardonos min, malgraŭ mia ne salutado al ĉiuj, pensante tion egala traktado. De nun mi havos respondecon, se vi ne estos kontenta.”

Li facile promesis en la amoplena maniero, ne el profunda konsidero.

(daŭrigota)

と聞こゆ。御指貫(さしぬき)の据(すそ)はいたうそぼちぬめり。昔だにあるかなきかなりし中門(ちゅうもん)など、まして形(かた)もなくなりて、入りたまふにつけても、いと無徳(むとく)なるを、立ちまじり見る人なきぞ心やすかりける。

姫君は、さりととも、待ち過ぎしたまへる心もしるくうれしけれど、いと恥づかしき御ありさまにて対面(たいめん)せんもいとつつましく思したり。大弐の北の方の奉(たてまつ)りおきし御衣(ぞ)どもをも、心ゆかず思されしゆかりに、見入れたまはざりけるを、この人々の香(かう)の御唐櫃(からびつ)に入れたりけるが、いとなつかしき香(か)したるを奉りければ、いかがはせむに着かへたまひて、かのすすけたる御几帳(きちやう)ひき寄せておはす。

入りたまひて、

「年ごろの隔てにも、心ばかりは変らずなん、思ひやりきこえつるを、さしもおどろかいたまはぬ恨めしさに、今まで試みきこえつるを、杉ならぬ木立のしるさに、え過ぎでなむ負けきこえにける」

とて、帷子(かたびら)をすこしかきやりたまへれば、例のいとおつましげに、とみにも答へきこえたまはず。かくばかり分(わ)け入りたまへるが浅からぬに、思ひおこしてぞ、ほのかに聞こえ出でたまひける。

「かかる草隠(かく)れに過ぎしたまひける年月のあはれもおろかならず、また変らぬ心ならひに、人の御心の中(うち)もたどり知らずながら、分け入りはべりつる露けさなどをいかが思す。年ごろの怠(おこた)り、はた、なべての世に思しゆるすらむ。今より後(のち)の御心にかなはざらむなん、言ひしに違(たが)ふ罪も負おふべき」

など、さしも思されぬことも、情(なさけ)々しう聞こえなしたまふこともどもあんめり。 (続く)

※ Kartamo: 末摘花

Zamenhof en Varsovio

渡辺 克義 (山口県)

Roman Dobrzyński, Zamenhof en Varsovio, UEA, 2017, KLEG 取り扱い 1500 円

エスペラントの創作者ザメンホフに関する評伝はあまた出版されてきた。エドモン・プリヴァやマージョリー・ボウルトンによる著作はとくに重要で、邦訳も上梓されている。日本語訳こそないが、N. Z. Maimon, “La kaŝita vivo de Zamenhof”, JEA, 1978; Z. Banet-Fornalowa, “La familio Zamenhof”, Kooperativo de Literatura Foiro, 2000; W. Żelazny, “Ludoviko Lazaro Zamenhof: Lia pensaro, sekvoj kaj konsideroj”, Centro de Esploroj Zamenhofologiaj ĉe la Universitato en Bjalistoko, 2014 などにも優れた研究である。邦人 (伊東三郎 [宮崎巖]、朝比賀昇 [小林司]、Ludovikito / いとうかんじ [伊東幹治]) の手になる著作も忘れてはならない。今日、ザメンホフ伝を出すなど屋上屋に架するようなものだと思う向きもあるが、このドブジンスキ著は前掲書とは趣を異にしている。

書籍には通常、「まえがき (Antaŭparolo)」の類があるものだが、本書では代わりに「ようこそ (Bonvenon)」と題する導入部があり、次のような文言で始まる。

Ludoviko Zamenhof en Varsovio estas gvidlibro laŭ varsoviaj spuroj de la kreinto de Esperanto. Li naskiĝis en Bjalistoko (15.12.1859), sed 44 jarojn de sia vivo pasigis en Varsovio. Tie li frekventis mezlernejon, inventis la internacian lingvon kaj laboris kiel okulkuracisto ĉe la strato Dzika (Sovaĝa), ŝanĝita poste en Zamenhof-strato. (p. 6.)

このように、本書はザメンホフの足跡をたどるワルシャワ・ガイドなのである。

著者のドブジンスキの本業はジャーナリストであるが、UEA 名誉会員の著名なエスペランティストでもある。『ザメンホフ通り エスペラントとホロコースト』(原書房、2005 年) や “Rakontoj el Oomoto”, Skonpress, 2013 の著者として日本でもよく知られている。

“Zamenhof en Varsovio” は次の 6 部構成に 2018.5

なっている (章に番号が振ってないので、便宜上、①～⑥のように表記することにする)。

① ZAMENHOFA MURANOVO (pp. 9-48), ② JUDA TOMBEJO EN VARSOVIO (pp. 49-61), ③ TOMBOJ DE ZAMENHOF-FAMILIANOJ (pp. 63-90), ④ ZAMENHOF-STRATO (pp. 91-114), ⑤ OAZO DE ĈIUJ SANKTULOJ (pp. 115-137), ⑥ POLIN (pp. 139-146).

①は、ザメンホフが 1873 年にビャウイストクからワルシャワに移って来てから逝去するまでのほとんどの時間を過ごしたムラヌフ地区のガイドになっている。読者はザメンホフが暮らした、ノヴォリピエ通り 28 番、ムラノフスカ通り 40 番、プシェヤスト通り 9 番、ノヴォリプキ通り 21 番、ジカ通り 9 番、クルレフスカ通り 41 番、とその周辺を散策することになる。当時の番地と現在の番地は符合していないことが多いので、p. 159 の地図がおおいに参考になる。②はオコボヴァ通り 49/51 番にあるユダヤ人墓地の概説になっている。③はザメンホフ家の墓地の詳細なガイドである。ザメンホフの母親のロザリアの墓やザメンホフの舅 (しゅうと) のアレクサンデル・ジルベルニクの墓も同じユダヤ人墓地にあるが、ザメンホフの墓からは少し離れたところにあるので、本書にある地図 (p. 65, p. 160) が参考になろう。④ではジカ通りが再度取り上げられており、ザメンホフの息子や娘についても記述されている。ちなみに、ジカ通りはザメンホフがワルシャワで最も長く暮らした場所である (1894 - 1915 年)。⑤では、グジボフスキ広場にある「万聖教会のオアシス」について説明がある。万聖教会は、ザメンホフの孫の L. C. ザレスキ=ザメンホフと母親のヴァンダが一時期生活していた場所である。1942 年 8 月、ザレスキ=ザメンホフはここからウムシュラークプラッツ (積換広場) を経てトレブリンカのガス室へと送られそうになるのであるが、奇跡的に一命を取り留めたのであった。⑥は 2013 年にワルシャワに開館された「ポーランド系ユダヤ人の歴史博物館 - POLIN」のガイドとなっている。

本書は新事実の発掘という点で多大な貢献をするものではないが、ザメンホフとその家族のワルシャワでの足跡をたどりたいという世界中のエスペランティストにとって最良かつ必携の案内書といえるだろう。

Pri baletto-lernejo “Esperante”

「Esperante (エスペラート)」は奈良県北葛城郡にあるバレエスタジオで、小さな子どもたちから大人までバレエを学んでいます。第105回日本エスペラント大会に出演していただくのに先立って、「エスペラート」主宰者の仲川りつ子さんに、バレエについて教えていただきました。(編集部)

R: redaktoro

N: s-ino Nakagawa Ritsuko

R: Kio estas “baletto”? Kiel ĝi diferencas de la aliaj dancoj?

N: Ne estas facile difini per vortoj. Baletto estas danco, kiu sekvas tradician danc-arton, kiu evoluis en Francio. La plej facila distingilo estas, ke oni uzas piedpintan ŝuon en baletto.

R: Mi aŭdis, ke terminoj de baletto estas francaj vortoj. Ĉu baletto naskiĝis en Francio?

N: Ne. baletto devenas de Florenco, Italio. En Italio prosperis opero kaj ĝin ĝuis nobeloj. En operoj oni prezentis ne nur kantojn, sed ankaŭ dancojn kun mimo. La danca parto iom post iom apartiĝis kaj ĝi nomiĝis baletto. En la 16-a jarcento princino de Italio, *Caterina di Lorenzo de' Medici*, venis al Francio por edziniĝi kun franca reĝo. Ŝi multe amis baleton kaj ŝi enkondukis ĝin en Francion. La reĝa familio subtenis baleton kaj ĝi prosperis en Francio. Kostumo propra al baletto, ekzemple *ĉuĉu* (balet-jupo), naskiĝis en Francio. Tial la terminoj de baletto estas francaj vortoj. En tiu tempo Francio estis lando de plej altnivela kulturo. Baletto prosperanta en Francio estis enportita en aliajn landojn, ekzemple Rusion. Al Japanio baletto alvenis tra Rusio, ĉefe.

R: Vi administras balet-lernejon kaj instruas tie, kaj la nomo estas “Esperante (prononco: esperato). Ĉu la nomo rilatas al “espero”?

N: Jes, la vorton mi trovis en vortaro. “Espero” estas tre grava afero, mi opinias. Pro belsoneco mi prononcas la vorton “esperato”.

R: Ĉu la lernantoj estas infanoj?

N: Ne nur infanoj. Ankaŭ plenaĝuloj lernas baleton ĉe mi. Troviĝas 40- aŭ 50-jaruloj en nia lernejo.

R: Kian aĝon havas la plej juna lernanto?

N: La plej juna lernanto estas 3-jara.

R: Ĉu lernas nur knabinoj?

N: Unu knabo lernas en mia lernejo.

R: Ĉu eblas komenci baleton en plena aĝo?

N: Kompreneble jes. Ankaŭ tiuj, kiuj komencis baleton en plena aĝo, povas progresi.

R: Ĉu la lerantoj havas okazon prezenti sian dancon publike?

N: Ĉiujare ni havas balet-koncerton. En la lasta jaro ni havis la 22-an koncerton. Ni invitas elstaran danciston el alia balet-trupo, kiu dancos kun la lernantoj.

R: Mi aŭdis, ke en koncerto la lernantoj mem devas aranĝi kostumon. Ekzemple kiam infano dancas en koncerto, la patrino devas mem fari vestojn por danci.

N: Mia lernejo ne postulas tion. Antaŭ ĉio, nunaj junaj patrinoj ne scipovas kudri. Vestojn por koncerto ni pruntas. Ekzistas komercisto, kiu profesie liveras kaj pruntas vestojn por baletto.

R: La lasta demando: kio estas celo de baletto en via lernejo?

N: Dancu kun ĝuo! Baletto faru la vivon pli riĉa kaj ĝojplena.



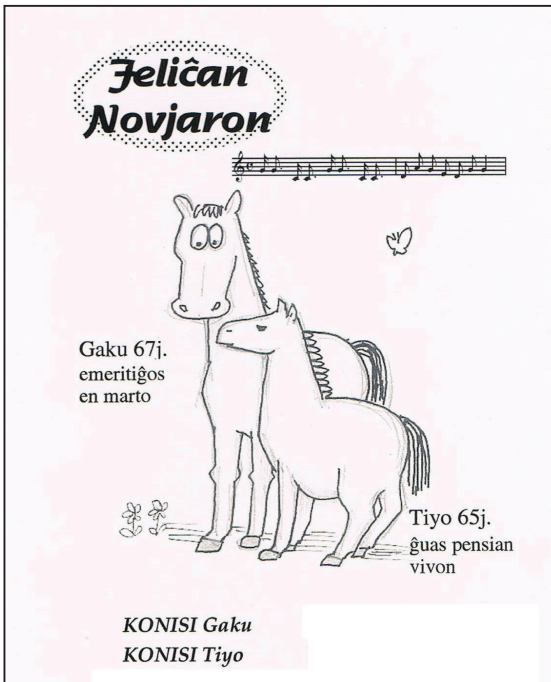
才気あふれる年賀状

相川 節子 (京都府)

小西さんからいただく年賀状には、いつも小西さんの才気が詰まっていた。これは2002年午年のものだが、まず“Feliĉan Novjaron”と書かれた部分のデザインが美しい。そして、文部省唱歌「子馬」の楽譜。「ハイシ、ハイシ、歩めよ子馬」という歌いだしの部分だ。中央には暖かみのあるイラスト、そして小西夫妻の近況が簡潔なエスペラント文で書かれている。わたしだったらダラダラと冗長なエス文になるところだ。手前の馬の表情には、ちよ夫人の優しい人柄までが描き込まれているように感じる。

最後に年賀状をいただいたのは、おそらく2012年。この時もていねいなイラストが描かれていた。いろりを囲む家族の絵だった。

小西さんとのご縁は深い。エスペラント文の書き方、翻訳のやり方、機関誌編集作業のことなど、合宿であるいは関西連盟の事務所で直接ご指導いただいた。時にはMACパソコン使用者どうしとしての助言もくださった。数々のご恩に報いるだけの仕事はまだできていないけれど、これからも努力を重ねて、一步でも偉大な先輩に近づきたい。



Japana kamelia oleo

YANO Akinori (Tokusima)

La memoraĵo de ĉi-jara Kongreso de Esperantistoj en Kansajo estos kamelia oleo.

Kamelio estas tradicia praarbo, pri kiu japanoj fieras al la mondo.

Ĝi estas unu el tri plej amataj florarboj en la tuta mondo kun rozoj kaj azaleoj.

Antaŭ 5000 jaroj japanoj, niaj prapatroj, kultivis ĝin en la epoko *Ĵoomon*. En la jaro 777 en la epoko *Nara*, kiam sendito el Ĉina regno *Bokai* revenis, la japana reĝo donis kamelian oleon kiel sian donacon. Tiutempe en Ĉinio ili konsideris ke en Japanio estas la eliksiro por senfina vivo kaj la sendito elserĉis kamelian oleon en Japanio. Poste dum longa tempo japana senditaro vojaĝis al regno *Tang* (唐) kaj omaĝis al ĉina imperiestro multan kamelian oleon.

Antaŭ longa tempo, kamelia oleo estis multe uzata kiel brulaĵo por lampolumo en nokto. Japanaj fraŭlinoj ŝmiris kamelian oleon por posedi belajn longajn harojn. Tiuj kutimoj estis originala formo de japana kulturo.

La ĉefaj lokoj, kie oni produktas kamelian oleon, estas insularoj *Izu* kaj *Gotoo*. Lastatempe oni konsideras, ke produktado de kamelia oleo estas unu el la plej bonaj industrioj por vigligo de loka ekonomio kaj tio antaŭenpuŝas la projektojn de kamelia kultivado en diversaj lokoj en Japanio. Ni ankaŭ agadis por tio dum 12 jaroj en la gubernio *Tokusima*.

Kamelia oleo entenas 85 procentojn da oleata acido (オレイン酸). Ĝi estas la plej multa kune kun hohoba (*Simmondsia chinensis*) oleo sovaĝanta en iu regiono de Suda Ameriko. Ĝi efikas por malmultigi kolesterolon en la homa korpo kaj preventi arterian sklerozon ktp.

Krome oni alte taksas ĝin kiel oleon por salato. En produktado de ŝampuo *Shiseido* uzas ĝin en ŝampuo kaj ĝia konsumado pli kaj pli disvastiĝas en la japana merkato.

Avo Pramisto (船頭さん)

poez. TAKEUTI Tosiko(1905-1945) muz. KAWAMURA Kōyō(1897-1946); trad. SIMATANI Takesi



1) Trans ri-ve - ro de l' vi - la - ĝo pra - mas A - vo kun la aĝ'
 2) En se-re - no kaj en plu - vo pra - mas A - vo, la a - ĝul'
 3) Por a - fe - ro de l' vi - la - ĝo kaj de - kre - to de la Alt'



de ses - dek ja - roj, mal - ju - nu - lo kun ku - raĝ'
 In - ter du bor - doj li re - ma - das por cir - kul'
 Ĉi - u ra - pi - de trans - ri - ve - ras en ekz - alt'



Kva - zaŭ ju - nu - lo e - ner - gi - a pra - mon re - mas li
 I - ras ĉe - va - lo trans ri - ve - ro; Pra - mon re - mas li
 Al o - ri - ent' kaj ok - ci - den - ten; Pra - mon re - mas li



En ak - vo kna - ras kaj plaŭ - da - das la re - mil' Ak - ve
 I - ras ĉe - va - o al la fron - to de mi - lit' Ak - ve
 En ak - vo kna - ras sen - ri - po - ze la re - mil' Ak - ve



kna - ras, plaŭ - da - das kaj kna - ras re - mil'
 kna - ras, plaŭ - da - das kaj kna - ras re - mil'
 kna - ras, plaŭ - da - das kaj kna - ras re - mil'

- 1) Trans rivero de l' vilaĝo pramas Avo kun la aĝ'
 de sesdek jaroj, maljunulo kun kuraĝ'
 Kvazaŭ junulo energia pramon remas li
 En akvo knaras kaj plaŭdadas la remil'
 Akve knaras, plaŭdadas kaj knaras remil'
- 2) En sereno kaj en pluvo pramas Avo, la aĝul'
 Inter du bordoj li remadas por cirkul'
 Iras ĉevalo trans rivero; Pramon remas li
 Iras ĉevalo al la fronto de milit'
 Akve knaras, plaŭdadas kaj knaras remil'
- 3) Por afero de l' vilaĝo kaj dekreto de la Alt'
 Ĉiu rapide transriveras en ekzalt'
 Al orient' kaj okcidenten; Pramon remas li
 En akvo knaras senripoze la remil'
 Akve knaras, plaŭdadas kaj knaras remil'

- 1) 村の渡しの 船頭さんは
 ことし六十のお爺さん
 年はとっても お船を漕ぐ時は
 元気いっぱい 艀がしなる ソレ
 ギッチラ ギッチラ ギッチラコ
- 2) 雨の降る日も 岸から岸へ
 ぬれて船漕ぐ お爺さん
 今日も渡しでお馬が通る
 あれは戦地へ行くお馬 ソレ
 ギッチラ ギッチラ ギッチラコ
- 3) 村の御用やお國の御用
 みんな急ぎの人ばかり
 西へ東へ船頭さんは
 休む暇なく船を漕ぐ ソレ
 ギッチラ ギッチラ ギッチラコ

第 66 回関西大会最新情報

お客様は韓国人の Unika さん

関西大会では毎年、アジアの青年をお客様として招いていますが、今年は埼玉県にお住まいの在日韓国人女性、青遠ニカさん（通称 Unika さん）をお招きしました。エスペラント講演などをお願いしています。講演は 5 月 26 日（土）13:00~14:20。

分科会

4 月 6 日現在で決まっている分科会は、次のとおりです。

日本の椿が世界を繋ぐ（p.10 参照）

5 月 26 日（土）13:00~14:20

高齢者分科会—高齢者難聴の実態とエスペラント語メリットの活かし方を探る

5 月 27 日（日）9:00~10:20

国際貿易経済連盟日本支部の活動紹介（ビジネスマッチング、web サイト作成援助）

5 月 27 日（日）10:30~11:50

科学者・医学者分科会（JESA・JEMA）

5 月 27 日（日）10:30~11:50

Gaja Vespero

4 月 6 日現在で申し込みのあった演目は 2 件。5 月 10 日まで受け付けますので、今からでもどうぞ。

狂言「素襖落 Hitataro Perdita」

コーラス (Heliko)

作文教室

本誌「楽しい作文教室」でおなじみの塚本猛さんによる作文教室があります。

5 月 27 日（日）10:30~11:50

公開番組のチラシができました

公開講演と入門講座のチラシができました。大会のサイトからダウンロードできます。

<http://www.kleg.org/kek/kek66/> 公開講演チラシ.pdf
フレーム切手

前川治哉さんが大会のシンボルマークをあしらったフレーム切手を作成しました。大会記念のはがきと封筒も作られています。いずれも会場で販売します。

会場には郵便局が出張し、小型日付印（記念スタンプ）も用意されますので、友人知人に会場からお手紙を送ってはいかがでしょう。

2018.5

神戸国際交流フェア 2018 に参加

神戸エスペラント会は 3 月 11 日、J R 神戸駅南にあるハーバーランド・スペースシアターで開催された国際交流フェスタに参加した。毎年参加している春の行事である。

11 時から 17 時まで、約 1 間幅のスペースにエスペラントの幟（のぼり）を立てて関係書籍を並べ、幾種類かのチラシを配った。スタンプ・ラリーに参加していたので、多くの人たちがシール集めのためにエスペラントのコーナーに来てくれた。

スタンプラリーは全部で 12 か所のコーナーを訪れシールを集めるという方法で、エスペラントのブースでは、「エスペラント語はどこ国の言葉でしょうか」という質問に正解したらシールを貼ってもらえる。

ブースを訪れる人にエスペラントに関し多少の説明をし、関係資料やチラシ等を渡した。最終的には 300 枚程配った計算になった。去年よりは多く配ったのではないと思う。積極的に質問する人も増えたように感じた。

[←磯貝 尚武]

吹田エスペラント会総会

3 月 31 日（土）14 時~16 時、吹田市千里山コミュニティセンターで、2017 年度吹田エスペラント会の総会を開催した。出席者 6 人、委任 6 人。

活動報告、決算報告、新年度の予算案が承認され、役員は留任。秋の文化祭の出しもの、関西大会の打ち合わせをして総会終了。その後 4 時過ぎから、関西大学の交換留学生として韓国から吹田へ来たばかりのジュウ・ウォンジェさんを囲んで歓談した。菅原道真の詩に感銘を受けて日本文学を専攻しているそうだ。若者は勇気と活動力があるとまぶしく感じた。

佐々木安子さんのご主人が来てくださり、吹田エス会の全員に『童話とエスペラント運動』の著書を寄贈して下さった。

[←矢吹 あさゑ]

マダガスカル留学生 Fafah さん、関西へ

茨城大学に留学中のマダガスカルの女性 RAFANOMEZANTSOAFALIMANANA さん（通称 Fafah さん）が、関西を訪れて地元のエスペランチ

La Movado 807

ストたちと交流した。Fafahさんは亀岡市に住んでいる宮本聖子さんと15年前から文通している。この3月末に1年半の留学期間を終えるのを機に、宮本さん宅に滞在した。

3月11日に宮本さんと吹田市の国立民族学博物館を見学、夜は大阪市の鉄板串酒場「しん家」で、第105回日本大会 LKKの有志と会食。店員が「何語で話しているんですか？」と興味を示していた。参加者はFafahさんを含め7人。

13日は保津川下りなどを楽しんだあと宇治城陽エスペラント会の例会に参加。職業は英語教師で、茨城大学へは英語教育の研究のために留学していること、自分の長い名前には“bela donaco” “riĉa” “feliĉa”の意味があること、中学生のときにエスペラントの学習を始めたこと、マダガスカルでは生徒用の教科書がなく、教師が黒板に書くのを生徒がノートに写すということなどを話した。マダガスカルに残してきた夫君とふたりのお子さんの写真も披露。

14日には京都エスペラント会の例会に参加。パソコンの画面で、マダガスカル人の生活、料理、景色などを見せた。公用語はフランス語とマダガスカル語だが、日常生活ではマダガスカル語を使っている。ヨーロッパのことばとは文法などがまったく違うそうだ。 [←宮本 聖子、堀田 有里、西 千寿子]



←宇治城陽エスペラント会にて
京都エスペラント会にて↓



京都府庁での観桜祭に参加

京都府と府庁日本館利活用応援ネットが主催する「観桜祭」が3月24日から4月8日まで行われ、この中で京都エスペラント会が4月6日・7日に展示とステージ発表を行った。会場は京都府庁内の重要文化財、旧議場。プログラムは①野田淳子さんによるエスペラントの歌②プロジェクタでスライドを映写しながらエスペラントを紹介③かわむら泰範さんによるボサノバ歌唱④かわむらさんによるIKEF(国際貿易経済連盟)の紹介⑤富田成美さんによる「宮沢賢治とエスペラント」のお話⑥田平正子さんによる会話例の紹介⑦入門講習会の呼びかけ、という順番で発表した。午前・午後にそれぞれ約1時間、合計4コマの発表で、②と⑦は森川和徳さんと笹沼一弘さんが交代であたった。会員を含むエスペランチストの参加は16人、エスペランチスト以外の訪問者は全部で約100人だった。

[←森川 和徳]



かわむら泰範さん



富田成美さん

出版情報

『長谷川テルを讃える』

合唱曲【希望の鳩ヴェルダ・マーヨ 長谷川テルの歌】

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部がこの3月に発行した本。ケイ・シュガーさんが作詞作曲した標記の歌が、日本語、エスペラント、中国語で掲載されている。

四部合唱の楽譜と歌詞のほか、日本のうたごえ祭典でこの歌を歌った「奈良蟻の会」合唱団団長の田中義男さんのあいさつ、作者ケイ・シュガーさんのスピーチ、関西エスペラント連盟会長の田熊健二さんのメッセージも。

なお、歌詞と楽譜は本誌1月号に掲載されている。

Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros nomon de iu koloro.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de majo, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	5	6	7	
8			*		9	10	
		11			12		
13	14			15		16	17
18			19		20	21	
		22		23			
24	25		26		27		28
29		30				31	*
		32					

Horizontale: 1. Granda besto vivanta en Afriko kaj suda Azio.(x) 8. Malgranda domo por preĝi aŭ havi di-servon.(x) 9. Mallongigo de Universala Esperanto-Asocio.(x) 11. Ornami tekston per bildoj.(x) 13. La novaj ge~oj donacis bukedon al la gepatroj en la nupto.(x) 15. For ~ la okuloj, for ~ la koro.(x) 16. Finaĵo de verbo prezenca.(x) 18. Li ĉiam portas okulvitrojn, ĉar li estas ~a.(x) 20. Forigi ne-necesajn herbojn en ĝardeno ktp.(x) 22. La 15-a de decembro estas naskiĝ~o de Zamenhof.(x) 24. Pronomo vira.(x) 26. Kaŝita afero aŭ fakto.(x) 29. Deziri havi ion, kion alia homo posedas.(x) 31. Surtabula ludo, en kiu oni uzas blankajn kaj nigrajn globetojn.(x) 32.

UK estas la plej granda ~o de Esperanto.(x)

Vertikale: 1. En la vendejo oni havas dek ~ojn de tiu libro.(x) 2. ♪En ~ mondon venis nova sento..("La Espero")(x) 3. Ŝia vivo estas plena de interesaj ~oj.(x) 4. Antaŭ mortigo de urso ne vendu ĝian ~on.(x) 5. Ne rekte esprimi.(x) 6. Dum la ~a tago li laboradis.(x) 7. Kiom ~ jaroj vi havas?(x) 10. Nur tiu ne ~os, kiu neniam ion faras.(x) 12. Duoble tri.(x) 14. En la komenco ~o kreis la ĉielon kaj la teron.(x) 17. Mi aĉetis kvin ~ojn da biero.(x) 19. "At" estas ne aktiva, sed ~a partecipo.(x) 21. Lupo havas ~ajn dentojn.(x) 23. Oni multe kultivas ~on en la gubernio *Sizuoka*.(x) 25. Sufikso montranta sekson.(x) 27. Per Esperanto mi havas multajn ~atojn.(x) 28. Dom~o estas granda domo.(x) 30. Interjekcio de malĝojo aŭ bedaŭro.(x)

La solvo al la marta enigmo: VESPERO

Solvis 15 legantoj:

武藤 たつこ, CA, 濱田 國貞, Sayuri, 中村 文雄,

西 千寿子,

Orion,

TADA,

Grebo,

前藤 寛,

久保田 俱視,

にし のりこ,

平井 倭佐子,

本田 照美,

Kacu

K	R	A	J	O	N	E	K
V	E	T	E	R	P	L	I
A	V	N	E	N	I	E	S
N	U	D	L	A	G		
K	R	E	A	N	A	S	
A	P	E	N	A	Ŭ	N	E
M	A	S	K	T	U	T	
T	E	C	N	U			
I	R	I	T	E	G	A	L

楽しい作文教室 (81) 成績

14 人の方から応募がありました。() 内は留意事項です。

うん、良いね：ヒー坊, CA, ikona, Fumi, alfa(③ damandis)。

良いね：AG(① malmulte), Orion(① 形容詞), Eiko(② 時制, ④ io), Ivajo(③, ④ 綴り), festo(③ sespektis, ④ iu), T.Ku(②, ③ 綴り), Haveno(④ iu), M.H.(①, ② voro)。

もうひといき：Drako(①形容詞, ④ iuj)。

小西岳さんをしのぶ会のお知らせ(再掲)

日時：4月30日(月/祝) 13:30～16:30

会場：豊中市立中央公民館 講座室(3F)

(大阪府豊中市曾根東町3丁目7-3)

電話：06-6866-0555)

※会場へは平服でお越しください。

交通案内：阪急宝塚線曾根駅から東へ約300メートル、徒歩約5分。

地図はサイトをご覧ください。KLEGのホームページのアクセスをクリックしていただければ、KLEG事務所とともにご覧になれます。

Mikspoto (当欄は敬称略)

★『週刊金曜日』3月16日号の「本箱」欄に、上田友彦著『あるエスペランチストの夢』を表紙写真入りで紹介。「話題の将棋でエスペラントを広める」「エスペラントへの情熱が詰まっている」と書かれている。 [←田平 正子]

★箕面市に昨年「クーネロコ」という喫茶店が開店。店のFacebookに「クーネは共に、ロコは場所」という意味です。エスペラント語です」とある。

[←山野 敏夫]

楽しい作文教室7月号課題(5月20日締切)

- ①窓の外では、雲が空に浮かんでいる。
 - ②ミミはケージの上に跳び、そこに立つ。
 - ③カーテンをよじ登ろうと試みる。
 - ④カーテンと天井の間の空間にさえ行く。
- (ヒント) 空中に浮かぶ *ŝvebi*、よじ登る *grimpi*、空間 *spaco*、天井 *plafono*、provi、kaĝo、eĉ を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはつきり伝わるように考えて訳してください。

送付先：

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811
塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KLEG 事務局だより

★ 3月31日(土)に棚卸しを実施しました。事務局員(大西真一さん、大畑賀代子さん、田熊健二さん、東藤薫久さん、中道民広さん)のほかに、磯貝尚武さん、森下綱子さん(いずれも神戸エスペラント会)が参加してくれました。

★ 棚卸しの後4時から事務局会議を開催しました。記帳方法の再確認や業務の分担などについて話し合いました。

★ 新年度の当直体制は、昨年と変わらず、月(大西)、火(中道)、水(大畑)、木(田熊)、金(東藤)、奇数月の土(中道)、偶数月の土(田熊)です。

事務所は、日曜、祝日以外は10時から17時まで開いていますので、積極的にご利用ください。来所される方は、念のため事前に電話をお願いします。

★ 第66回関西大会の参加申込は、4月末までが4,000円とお得です。まだの方は、早めに申込みをどうぞ。

KLEG後援会へのご寄付

(2018年3月、敬称略)

三輪 博昭 10,000円

匿名 10,000円

道城 義子 3,000円

ご支援、ありがとうございます。

第2回日韓共同開催エスペラント大会

第105回日本エスペラント大会

第50回韓国エスペラント大会

期日：2018年10月12日(金)～14日(日)

会場：奈良県文化会館

<http://www.jei.or.jp/evento/2018/komuna/index.htm>

第92回九州エスペラント大会

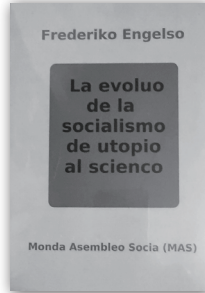
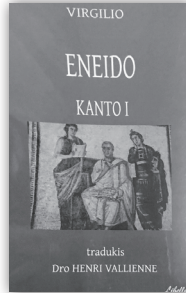
期日：2018年10月20日(土)～21日(日)

会場：熊本市 水前寺共済会館(予定)

第19回中国・四国エスペラント大会

期日：2018年10月27日(土)～28日(日)

会場：広島県福山市 国民宿舎「仙酔島」



★ 新刊・新着 ★

対訳カルロ (第2版) 900円
名文家 Privat の自伝的短編 "Karlo"。読解に役立ついいな註釈付き。A5版、134p.

Sonoril-Urĉjo 2600円
Selina Chönoz 作のスイスでよく知られた絵本 (Alois Carigiet 絵、M. Weidmann 訳)。春を迎える伝統行事にちなむ。A5版、45p.

Eneido 1400円
ウェルギリウスの叙事詩「アエネーイス」(H. Vallienne 訳)。後世への影響も大きいラテン文学の傑作。A5版、119p.

La evoluo de la socialismo de utopio al scienco 1200円
社会主義への入門書、エンゲルスの「空想から科学へ」(V. Lutermano 訳)。A5版、66p.

★ 小西岳による達意の訳で読む日本文学 ★

Postmilita Japano Antologio 1500円
戦後日本文学選集(小田切秀雄解説)。小西訳は安部公房「闖入者」、野坂昭如「火垂るの墓」。

Nokto de la Galaksia Fervojo 1000円
宮沢賢治「銀河鉄道の夜」「ガスコーブドリの伝記」「シグナルとシグナレス」など全5編。

Noveloj de Akutagawa Ryūnosuke 1000円
「蜘蛛の糸」「蜜柑」「早春」など対訳芥川集。

Kuru, Melos! 350円
太宰治「走れメロス」。原作テキスト付き。

La edzino de kuracisto Hanaoka Seisyū

1404円
有吉佐和子の代表作『華岡青洲の妻』。

★ 在庫から ★

Vivo de Zamenhof 1100円
Privat の古典的名著 (U. Lins 新編集の第6版)。

Reĝo Edipo kaj Antigona 800円
ソフォクレス「オイディプス」「アンティゴネ」。

La mizero de la filozofio 2200円
カール・マルクス「哲学の貧困」。

★ 再入荷 (一部価格を変更) ★

Amiko el la junaĝo de Maigret 1800円

En la realo troviĝas truo 900円

Fundamento de Esperanto 2700円

Paolo, la lernanto de Leonardo da Vinĉi 1500円

Pasporta servo 2017 1300円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。
現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ 1941年7月に発表された童謡「船頭さん」を掲載しました。「あれは戦地へ行くお馬」等を含む2番3番は、戦後峰田明彦が改稿。改稿は著作権が残っています。「今年60」は「お爺さん」ではない、という方は、「今年80」等で歌ってください。(島谷剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料62円 1年3800円 送料共
局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
九州支局：九州エスペラント連盟内 〒859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方電話 (0957)43-4352
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町櫛木字観音面14-1 木谷幸子方 電話(088)688-1098